

盛岡市遺跡の学び館 学芸講座 2023.10.15

斯波郡北部における9・10世紀の古代集落

— 盛岡市盛南地区・飯岡地区・羽場地区 —

盛岡市遺跡の学び館 津嶋知弘

1. 斯波郡の成立過程 ～プロローグ～

(1) 文献記事に見る蝦夷と城柵と斯波郡

○坂上田村麻呂と志波城

蝦夷(エミシ)とは：政治的概念、古代国家の支配の及ばない東北の人々

「三十八年戦争」：辺境への国家支配の拡大、蝦夷側の抵抗（部族社会、個別的）

始まり：774年 海道蝦夷の反乱、776年 志波村蝦夷の反乱

征夷大將軍 坂上田村麻呂の征討により北上盆地全域が制圧される（801年）

北上盆地の南部に胆沢城（奥州市）造営（802年）、北部に志波城（盛岡市）

造営（803年） → 城柵とは“行政+軍事”の施設、律令国家の拠点

志波地域の特殊性：序盤で律令国家側に帰順、勢力を温存したまま城柵を受け入れ

志波城近傍（盛南地区）での大規模発掘調査の結果、9世紀前葉までは律令側の文化の影響は限定的で、8世紀代の蝦夷文化が強く残ることが明らかとなる。

○“志波城鎮守府”と斯波郡建置

「徳政相論」（805年）：蝦夷統治の転換点（坂東諸国からの支援打ち切り）

当国鎮兵制の成立(806年)、鎮守府が行政機構として国府多賀城から独立(808年)

“志波城鎮守府”説：808年の鎮守府の移転先は胆沢城ではなく志波城ではないか

根拠① 城内から「府」字墨書土器が出土（郭内北部工房域竪穴建物跡）

根拠②-1 規模の特殊性：外郭・政庁規模とも胆沢城を上回る（国府級）

根拠②-2 構造の特殊性：政庁区画の格が創建期胆沢城の上（築地塀、八脚門）

政庁・官衙域を改修している（鎮守府仕様へ変更か）

外郭域に外大溝・遠大溝を設置している（荘厳化か）

根拠③ 「類聚三代格」大同五年(810)の記事：鎮守府官人給与米の運搬距離

「和我・稗縫・斯波」三郡の建置（811年正月）：雫石川以南の律令統治

行政基盤の整備完成、俘囚軍（温存された蝦夷系武力）の編成

征夷將軍 文室綿麻呂の征討（811年10月）：岩手郡域の安定化、官制・兵制の改革

「三十八年戦争」終結宣言、鎮守府志波城の廃城、徳丹城への城柵機能の移転、

胆沢城へ鎮守府の再移転、副將軍廃止、軍団兵士・鎮兵の削減、俘囚軍の常用化

2. 斯波郡北部の古代集落

(1) 古代集落の性格

① 在地蝦夷系一般集落（9～11世紀代）

文献記事に見られる8世紀後葉の「志波村」から続く在地蝦夷勢力の集落。竪穴建物が主体で、一部では9世紀中葉以降に掘立柱建物が出現。本宮熊堂B遺跡、野古A・飯岡沢田遺跡、台太郎遺跡、細谷地・向中野館(南)遺跡、二又遺跡など。飯岡才川・向中野館(北)遺跡、大島遺跡は、9世紀中葉以降に拠点集落へ転換。

② 律令政府系計画集落（9世紀前葉）

9世紀初頭の「志波城」設置に伴い、律令政府側が計画的に配置したと考えられる集落（集落数は限定的）。8世紀代にはない掘立柱建物が存在し、底部へラ切り須恵器坏、多量の鉄鏃などが出土。小幅・宮沢遺跡、飯岡林崎Ⅱ遺跡など。9世紀中葉以降は、集落域を変えて在地蝦夷系一般集落へ転換。

③ 在地蝦夷系特殊集落（10～11世紀代）

10世紀代から始まる新興在地有力者の拠点集落。大型掘立柱建物が出現し、宗教的遺物（灯明皿・多嘴瓶・墨書土器など）が出土。林崎遺跡、大宮北遺跡など。

(2) 律令政府系計画集落（9世紀前葉）

〔小幅・宮沢遺跡〕

小幅遺跡の北半部から宮沢遺跡の北端部に連続して古代集落が展開。志波城跡に近い盛南地区北西部に位置。集落範囲は東西約500m・南北250m。竪穴建物跡39棟、掘立柱建物跡7棟など確認。

9世紀前葉の竪穴建物と掘立柱建物は、集落南部に分布。8世紀代には見られないSB05掘立柱建物（桁行3間×梁行2間）は、柱を建てる掘方の穴が方形で規模が大きく、律令系の官衙建物的様相を示す。竪穴建物から須恵器の坏が多く出土。底部の切り離し手法について、志波城跡に特徴的な回転へラ切りのものが混在。以上から、律令政府側が計画的に配置した集落と考えられる。

〔飯岡林崎Ⅱ遺跡〕

飯岡地区に所在、県道改良工事に伴う発掘調査で竪穴建物跡37棟、掘立柱建物跡など確認。遺跡範囲は東西約350m・南北約350m。

第1・3次調査北端部の一辺6.7mのRA004竪穴建物跡は、大量の炭化材と炭化米が出土する焼失家屋。志波城跡に特徴的な底部へラ切り須恵器坏が主体、9世紀前葉の年代。周辺では、圃場整備に伴う試掘調査で須恵器の円面硯も出土していることから、律令政府側が計画的に配置した集落と考えられる。

(3) 在地蝦夷系一般集落（9～11世紀代）

〔台太郎遺跡〕

遺跡北端を除くほぼ全域に古代集落が展開。集落範囲は東西約800m・南北500m。竪穴建物跡が700棟以上と、集落域の広さ、竪穴建物数とも盛南地区最大。

9世紀中葉～11世紀代の竪穴建物は、7・8世紀代とは異なり、低湿地に近い集落西部と旧河道に近い北部～東部の段丘縁辺部に分布が集中。掘立柱建物は、東部で3×2間の側柱建物が竪穴建物と組み合わせる。西部では総柱の高床倉庫が大型住居の近くに確認される。特徴的な出土遺物は、羽釜や耳皿、口頸部に魚状の線刻画のある須恵器大甕、鉄製品、小鍛冶の鉄滓やフイゴ羽口など。また、10世紀後葉～11世紀の擦文文化に特徴的な把手付土器が、竪穴建物廃絶後の窪みに廃棄された状態で出土。

〔飯岡才川・向中野館(北)遺跡〕

飯岡才川遺跡は、竪穴建物跡52棟と掘立柱建物跡8棟、円形周溝墓・土坑墓35基が確認。向中野館遺跡の古代の遺構は、中央の低湿地帯（才川）を挟んで南北に分かれ、北部は竪穴建物跡16棟が確認、低湿地帯は遺物包含層を形成する水場祭祀遺構。

飯岡才川遺跡「北集落」は東西約150m・南北200m。遺跡北端に8世紀代の集落、9世紀前半に円形周溝墓群が形成され、9世紀中葉以降の集落は円形周溝墓群を避けて南側に展開。9世紀後葉のRA014竪穴建物から、石帯具の「鉈尾」（メノウ製）が出土。

飯岡才川遺跡東部から向中野館遺跡北部にかけては9世紀中葉～10世紀の集落が展開。この「東集落」は東西約380m・南北約70m。中央部に大型竪穴建物と、総柱の掘立柱建物（高床倉庫）群が集中。大型竪穴建物は、複数回のカマドの作り替えがあり、須恵器が多数出土。水場祭祀遺構は、多量の墨書土器のほか、木簡や封緘木簡が出土。倉庫群の存在から9世紀中葉の在地蝦夷系有力者の拠点、郡家的集落か。

〔細谷地・向中野館(南)遺跡〕

細谷地遺跡から向中野館遺跡南部に連続して古代集落が展開し、全体の集落範囲は東西約600m・南北500m。細谷地遺跡は、7世紀後半～10世紀の竪穴建物跡247棟、掘立柱建物跡13棟が確認。向中野館遺跡南部では、8世紀～10世紀の竪穴建物跡20棟、掘立柱建物跡4棟が確認。8世紀代～9世紀前葉の竪穴建物が集落域北東の旧河道沿いに带状にまとまるのに対し、9世紀中葉以降は集落域北西部の低湿地帯（才川）沿い（飯岡才川遺跡東集落の対岸）に拡大。

この「北集落」には掘立柱建物が点在し、2×2間の総柱または側柱の倉庫のほか、桁行3間または2間の規模がやや大きい建物が低湿地帯沿いに2棟。大型竪穴建物には複数回のカマドの作り替えがあり、須恵器甕・壺が多数出土。特徴的な出土遺物は、内黒の暗文土器、墨書土器（多文字）、耳皿、甑、鉄製品（鉄鏃・鉄鐸・小札）など。

一方、細谷地遺跡南東端は大溝 RG091 で南北に区画され、この“南集落”の竪穴建物 RA226 からは、10世紀初頭の有孔小型^{ゆうこう つき}環や特徴的な器形^{たしへい}の多嘴瓶^{たしへい}が複数個体出土。宗教的（仏教）儀式の場と考えられる。

〔大島遺跡〕

羽場地区に所在（南東近隣に新野球場「いわて盛岡ボールパーク」）、盛岡市中央卸売市場（新市場）整備事業に伴う発掘調査（調査面積 27,300 m²）で8世紀代～10世紀中葉の竪穴建物跡^{たてあなたてものあと}127棟、掘立柱建物跡^{ほったてぼしらたてものあと}16棟、畝間状遺構^{うねまじょういこう}10箇所などが確認。遺構の分布は、南北に走る沢状^{さわじょうてい}低地に挟まれた微高地上^{びこうち}に、集落が集中。竪穴建物のまとまりから5箇所の小集落に分かれている。

●竪穴建物跡：9世紀代～10世紀前葉の竪穴建物は107棟。重複やカマドの作り替え、平面規模拡張が多い。規模は、中型住居が68%と過半数、大型・特大住居が15%、小型住居が17%。煙道がのびるカマド方向の傾きは、東カマドを最多に北東～南東カマドが78棟と多数を占める。

RA152 竪穴建物は、拡張とカマドの作り替えで5期変遷がある大型住居。年代は9世紀中葉。支柱穴^{しゅちゅうけつ}は、木製^{くわ}鎌^{そぼん}を礎板^{そぼん}に転用し、柱材は断面長方形（五平柱^{ごひらばしら}）と確認。

RA098 竪穴建物は、平面規模 7.9×8.1mと大島遺跡最大の特大住居（9世紀中葉）、壁際^{しゅうこう}周溝^{しゅうこう}の木材が残存。

RA078、RA084 竪穴建物からは、口縁部^{くちよく}に鏢状^{つば}の張り出しが付くあかやき土器^{はがま}の羽釜^{はがま}（関東に特徴的）が出土。

RA004 竪穴建物（9世紀代）の床面からは石帯具^{せきたいぐ}の「鉈尾^{だび}」（原資料は火災事故で罹災焼失）が、東2小集落の遺構検出面と西1・2小集落の表土より「丸軋^{まるとも}」が3個体出土。ともに岩手県内での出土例に限られる貴重な資料。

●掘立柱建物跡：9世紀代の掘立柱建物跡は計16棟。過半数の9棟が2×2間の総柱^{そうばしら}建物^{けん}で、高床倉庫群と考えられる。

RB070 掘立柱建物は、桁行^{けたゆき}3間×梁行^{はりゆき}2間の東西棟の側柱^{がわばしら}建物^{けん}で、柱間は2.1m等間。柱を建てる掘方^{ほりかた}の抜き取り穴^{すえき}に須恵器^{すえき}大甕^{おおがめ}・壺^{つぼ}・長頸瓶^{ちようけいへい}が大量に廃棄され、掘方底面に礎板^{そぼん}とした木材が残存。

●畝間状遺構：小溝が平行に並んで群をなす遺構。特に東2小集落東半部の大部分を占めるRX306 畝間状遺構は37.5×27.0mと大規模で、1段30条以上の小溝が4～5段連なる。埋土上層に灰白色の十和田^{とわだ}a火山灰（915年降下）が混じることから、9世紀後半～10世紀初頭の畑の痕跡^{うねま}（畝間）と考えられ、集落に隣接して陸稻^{おかぼ}や雑穀類が栽培されていたことがわかる。

●総括：9世紀中葉～10世紀前葉の大島遺跡^{おおしま}は、志波城跡^{しわじょうあと}と後続する徳丹城跡^{とくだんじょうあと}の中間点に位置し、斯波郡北部と南部を繋ぐ重要地点であったと考えられる。石帯^{せきたい}や倉庫群の存

在から在地蝦夷系有力者の拠点であり、郡家的集落か。

(4) 在地蝦夷系特殊集落 (10～11世紀代)

〔林崎遺跡〕

志波城跡の外郭東辺北部から東に古代集落が展開、遺跡範囲は東西200m・南北140m。10世紀前葉～中葉の竪穴建物跡16棟、大型掘立柱建物跡2棟などが確認。

竪穴建物は、段丘縁辺部の遺跡北部に分布し、北東～南東カマドが多い。あかやき土器の出土が卓越し、特殊な器形の多嘴瓶や、坏に「寺」「上万」「大上」と記された墨書土器が特徴的（原資料は火災事故で罹災焼失）。坏の約20%に灯明皿として使用された痕跡（燈心痕）が見られるという特徴もあり、宗教（仏教）的様相を強く示す。

遺跡の西側にRG07志波城一町溝（志波城跡の最も外側を区画する大溝、「遠大溝」（八木2022））が南北に走っており（10世紀代まで開口）、その東隣（遺跡中央部）に大型掘立柱建物2棟（RB01・03）が確認。RB01建物とRG03建物は横L字形に配置され、ともに桁行5間・梁行2間と推定。柱間寸法が約3m、柱を建てる穴である掘方が一辺1.0～1.5mと大きく、それぞれ3期変遷がある。これらは志波城政庁の主要舎殿に匹敵する規模。10世紀前葉～中葉、林崎遺跡の古代集落は、地域支配の象徴として聖域化した志波城跡地に隣接して大型掘立柱建物を建設し、宗教（仏教）的儀式を行うことによって権威を高めようとした、9世紀中葉～10世紀初頭の在地蝦夷系有力者の中から台頭した新興有力者（鎮守府在庁官人クラス）の新たな政治的拠点か。

〔大宮北遺跡〕

林崎遺跡の南東方に位置する大宮北遺跡の中央北部に古代集落が展開し、集落範囲は東西150m・南北110m。集落の南と西が大溝で区画され、北と東の段丘縁辺に囲まれた内部に10世紀代の掘立柱建物10棟が確認されている。

RB006建物は桁行推定5間（2.4m等間）、梁行推定2間（1.8m等間）で西廂を持つ南北棟の大型掘立柱建物。西に近接する土坑RD008には、あかやき土器坏・高台付坏が多量に廃棄されていた（10世紀後葉）。

RD010建物は梁行2間（2.4m等間）、桁行推定5間（2.4m等間）で北廂を持つ東西棟の大型掘立柱建物。南に近接する土器廃棄遺構RZ002から意図的に打ち欠いたあかやき土器坏・高台付坏・小皿の破片が多量に出土（11世紀初頭）、政治的儀式の遺構か。

南の区画大溝RG015は幅が2.6mあり、あかやき土器坏・小型坏・高台付坏がまとめて出土（10世紀中葉）。

大宮北遺跡の古代集落は、掘立柱建物群と区画大溝のみで構成。林崎遺跡に後続する、10世紀中葉～11世紀初頭の新興有力者（鎮守府在庁官人クラス）の政治的拠点、館（たち）的施設か。

(5) 総括－9世紀中葉以降の土器群・集落の変化と蝦夷社会の変容

●9世紀中葉以降の変化

- ①土師器坏のロクロ使用、②須恵器・あかやき土器の普及、③鉄器の普及、
- ④カマド（煙道）方向の東～南指向、⑤竪穴建物上屋の非規格化・簡略化、
- ⑥掘立柱建物（倉庫）の普遍化

⇒ 律令国家側からの技術移転、それに伴う伝統的蝦夷文化の変化

●9世紀初頭の志波城建置後も集落を継続した志波蝦夷の族長達は、ゆるやかに律令制に組み込まれ、在地蝦夷系有力者へと転換・成長。徳丹城が廃絶された9世紀中葉以降の鎮守府胆沢城は、彼らを介して間接的な広域統治システムを維持。

大島遺跡出土の石帯具や緑釉陶器は、鎮守府胆沢城から下賜された象徴的品物。

承和二年(835)に「物部斯波連」の姓を賜った俘囚は、この在地蝦夷系有力者か。

●9世紀中葉の承和～貞観年間には飢饉や疫病、異常気象、大地震の記録が全国的に見られ、陸奥国北部では逃亡や動乱（「奥郡騒乱」）、出羽国では、元慶二年(878)に大規模反乱が発生（「元慶の乱」）。

●10～11世紀の蝦夷系住民の社会は、仏教など外来文化の影響を受けて大きく変容。鎮守府と結託した新興有力者（鎮守府在庁官人クラス）と俘囚兵力は大きな勢力を持つようになる。

3. 安倍氏の時代へ ～エピローグ～

(1) 城柵の終焉と奥六郡

○城柵の終焉

鎮守府胆沢城の終末は10世紀中葉。「蝦夷支配のための城柵は、実利的な役割だけが残り」、「10世紀中葉にはその存在意義を大幅に失う」。

全国的に10世紀中葉前後に国府の衰退や停止。国司の受領化（任地で強大な権力を移譲され巨額の富を得る）など国郡里制の崩壊が進行。

陸奥・出羽では、軍事が国司や在庁官人の私的兵力（俘囚軍）主体に変化し、正規軍が縮小・停止されたことで、城柵を継続する必要性がなくなる。

○奥六郡と安倍氏

鎮守府が管轄していた地域について、10世紀後半には「奥六郡」（胆沢、江刺、和賀、稗貫、斯波、岩手）と呼ばれていた。

前九年合戦を戦う安倍頼良（頼時）は、父が陸奥権守に叙任された後継として鎮守府在庁の代表官人となり、鳥海柵（金ヶ崎町）に居住。各地に一族や郎党を配置して地域統治の拠点とし、北方蝦夷との交易を独占。

^{くりやがわのさく}
(2) 厨川柵と11世紀の遺跡

「厨川柵」(^{ぜんくねんかつせん}前九年合戦最後の戦場)

^{いわてぐん}岩手郡域の^{おおだてちょう}大館町・^{だいしんちょう}大新町・^{こやづか}小屋塚遺跡を中心とする範囲

その北西の^{あかほろ}赤裳遺跡がこの時期の土器生産遺跡

^{しわぐん}斯波郡北部では、^{おおみやきた}大宮北遺跡、^{だいたろう}台太郎遺跡、^{ふたまた}二又遺跡で11世紀初頭の土器や遺構
^{おうう}奥羽は、「^{じょうさく}城柵の時代」(古代)から「兵(つわもの)の時代」(中世)へ

^{ふたまた}
〔二又遺跡〕

^{いいおか}飯岡地区に所在。遺跡中央の県道改良工事に伴う発掘調査と、遺跡内の住宅建築に伴う発掘調査により、^{たてあなたてもあつ}竪穴建物跡31棟と^{ほったてぼしらたてもあつ}掘立柱建物跡が確認。遺跡範囲は東西約300m・南北約250m。9世紀後半～11世初頭の集落。

第11・12次調査では、調査区の北部に竪穴建物(住居)と掘立柱建物が集中。一辺6m以上のRA026特大住居(10世紀前半)と、^{けたゆき}桁行3間(総長7.65m)・^{けん}梁行2間(総長5.22m)の大きな^{ほりかた}掘方を持つRB001掘立柱建物が、東西に並んで発見。

その東に隣接する第9次調査では、RA008竪穴建物(一辺4.2～4.4m)より11世紀初頭の土器群が出土。

【引用・参考文献】

- 青森県教育委員会 1990「第IX章 蝦夷のくに」『図説ふるさと青森の歴史 総括編』
- 高橋学 1989「竪穴住居と掘立柱建物が併列して構築される遺構について—能代市福田遺跡・十二林遺跡を端緒として—」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第4号
- 津嶋知弘 2004「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編 高志書院
- 津嶋知弘 2013「古代斯波志波郡北部の土器群変遷(その1) 雫石川南岸所在の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に—」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート vol.2
- 津嶋知弘 2015「古代斯波志波郡北部の土器群変遷(その2) 雫石川南岸所在の盛岡市教育委員会発掘調査資料②」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート vol.4
- 津嶋知弘 2023 書評「八木光則著『古代城柵と地域社会』」『岩手考古学』第34号
- 樋口知志 2022「4章 多賀城・城柵と蝦夷」『シリーズ 地域の古代日本 陸奥と渡鳥』吉村武彦・川尻秋生・松本武彦編 KADOKAWA 角川選書 656
- 樋口知志 2022「序論 安倍・清原氏と前九年・後三年合戦」『安倍・清原氏の巨大城柵 鳥海柵跡・大鳥井山遺跡』樋口知志編 吉川弘文館
- 盛岡市遺跡の学び館 2017『第15回企画展「志波城前夜」の蝦夷(エミシ)社会—9世紀初頭以前の盛南地区』図録』
- 盛岡市遺跡の学び館 2019『第17回企画展「安倍氏最後の拠点 厨川」図録』
- 盛岡市教育委員会 2016『志波城跡と蝦夷(エミシ)』盛岡市文化財シリーズ第43集
- 八木光則 2022『古代城柵と地域支配』同成社 古代史選書 41

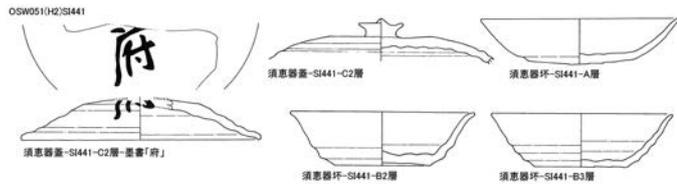
【発掘調査報告書】

<公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(県埋文)>

- 1996年11月『小幡遺跡第4次発掘調査報告書 盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査』第265集
- 2002年3月『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査』第393集
- 2002年3月『細谷地遺跡発掘調査報告書 第4・5次調査 盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査』第414集
- 2004年2月『飯岡林崎II遺跡発掘調査報告書(第1・3次調査) 緊急地方道路整備事業主要地方道盛岡和賀線改良工事関連遺跡発掘調査』第427集
- 2004年2月『矢盛遺跡第3次・熊堂B遺跡第14次発掘調査報告書 盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査』第451集
- 2006年2月『本宮熊堂A遺跡第24次・本宮熊堂B遺跡第25次発掘調査報告書 一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査』第470集
- 2007年2月『飯岡才川遺跡第8・9次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』第494集
- 2007年3月『細谷地遺跡第9次・第10次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』第500集
- 2007年2月『野古A遺跡第23・24・29次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』第501集
- 2007年3月『向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書 盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査』第503集
- 2008年2月『飯岡才川遺跡第7・13次・細谷地遺跡第12次・矢盛遺跡第9次発掘調査報告書 一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査』第508集
- 2008年2月『細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』第513集
- 2010年3月『向中野館遺跡第10・11次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業』第557集
- 2012年3月『細谷地遺跡第26次発掘調査報告書 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査』第595集
- 2014年3月『二又遺跡第11・12次発掘調査報告書 主要地方道盛岡和賀線道路改良工事関連遺跡発掘調査』第623集

<盛岡市教育委員会(市教委)>

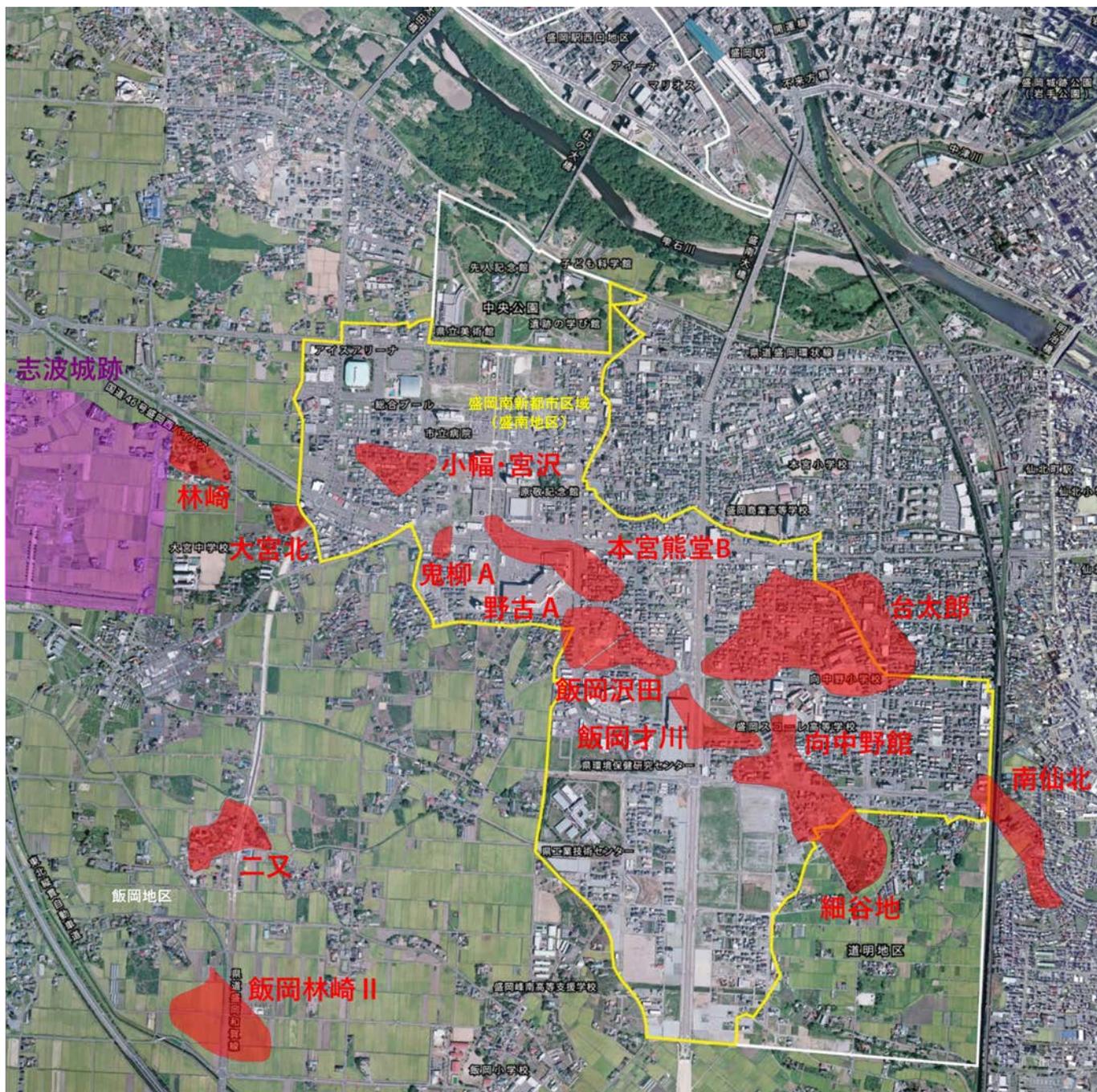
- 1979年3月『太田方八丁遺跡 昭和53年度発掘調査概報』
- 1985年3月『盛岡市埋蔵文化財調査年報 昭和55～58年度』
- 1998年3月『盛岡市埋蔵文化財調査年報 平成5・6年度』
- 2007年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書I 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成5～12年度発掘調査①』
- 2008年3月『盛岡市内遺跡群 平成18・19年度発掘調査報告書』
- 2012年5月『台太郎遺跡「フローラルアベニュー向中野」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書』
- 2012年9月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書IV 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13～19年度発掘調査①』
- 2013年3月『盛岡市内遺跡群 平成22・23年度発掘調査報告』
- 2014年1月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書V 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13～19年度発掘調査②』
- 2014年3月『台太郎遺跡 株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事に伴う緊急発掘調査報告書』
- 2014年3月『盛岡市内遺跡群 平成24・25年度発掘調査報告』
- 2016年9月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書VIII 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成22～24年度発掘調査①』
- 2017年6月『台太郎遺跡 賃貸住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』
- 2018年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書X 道明地区土地区画整理事業関連遺跡平成20～26年度発掘調査』
- 2021年8月『大島遺跡第1～4次発掘調査概要報告書 盛岡市中央卸売市場(新市場)整備関連発掘調査』



墨書土器「府」(志波城跡郭内北部SI444竖穴建物跡)



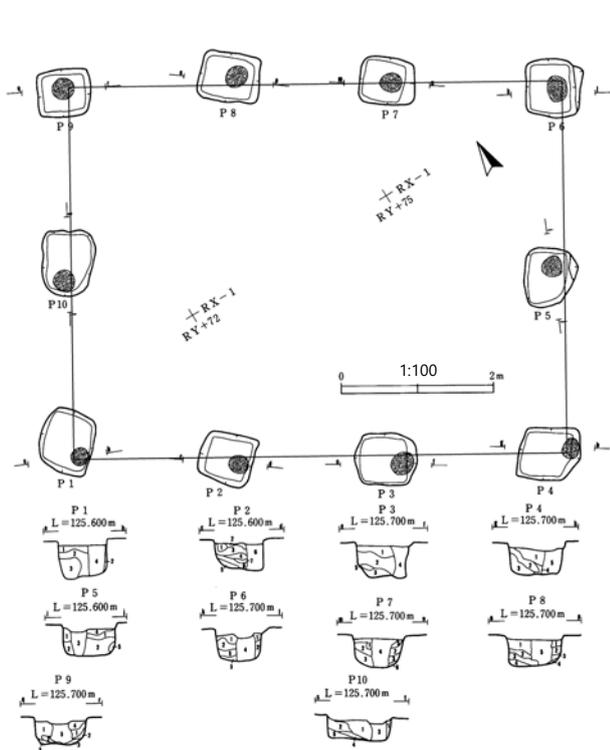
復元された志波城跡政庁南門(八脚門)と築地塀



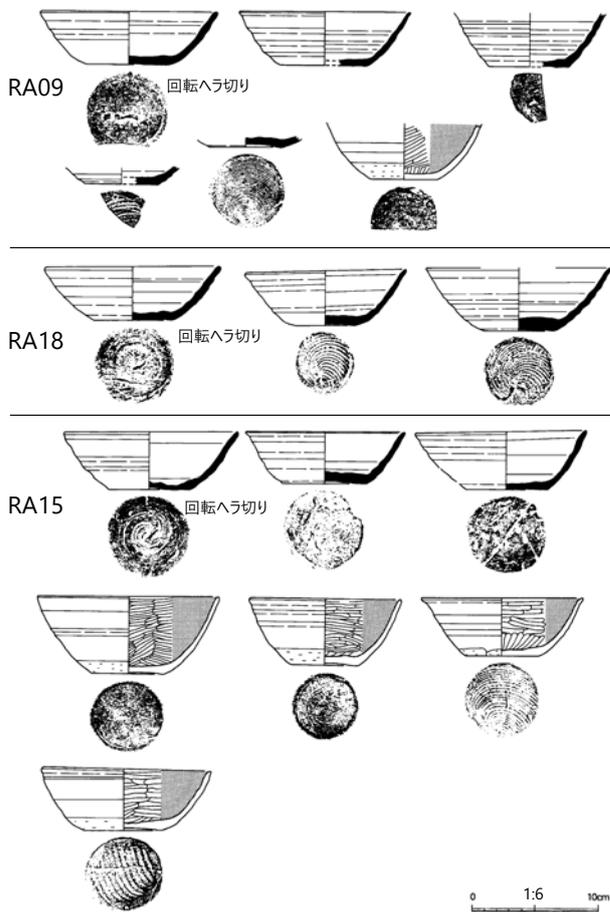
①在地蝦夷系一般集落(9~11世紀代)
本宮熊堂B遺跡、野古A・飯岡沢田遺跡、
台太郎遺跡、細谷地・向中野館(南)遺跡、
二又遺跡。飯岡才川・向中野館(北)遺跡、
大島遺跡は9世紀中葉以降に拠点集落へ転換

②律令政府系計画集落(9世紀前葉)
小福・宮沢遺跡、飯岡林崎II遺跡。
9世紀中葉以降は、集落域を変えて
在地蝦夷系一般集落へ転換。

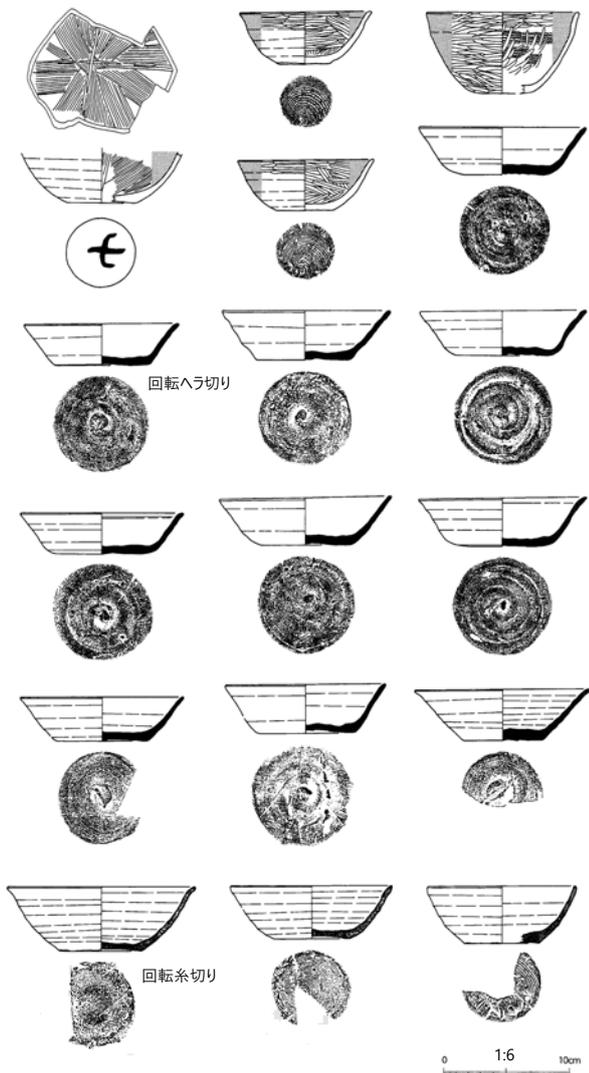
③在地蝦夷系特殊集落(10~11世紀代)
林崎遺跡、大宮北遺跡。



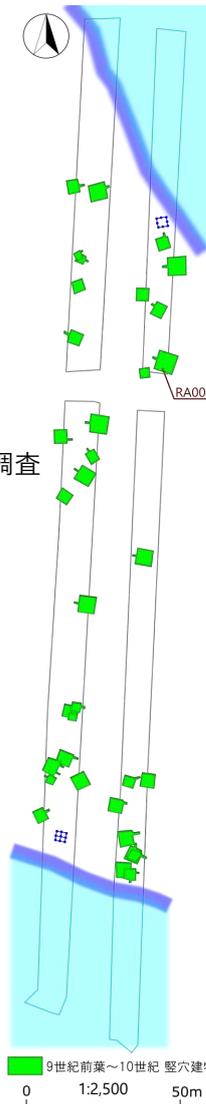
小幡遺跡第4次調査RB05掘立柱建物跡
〔県埋文265集より〕



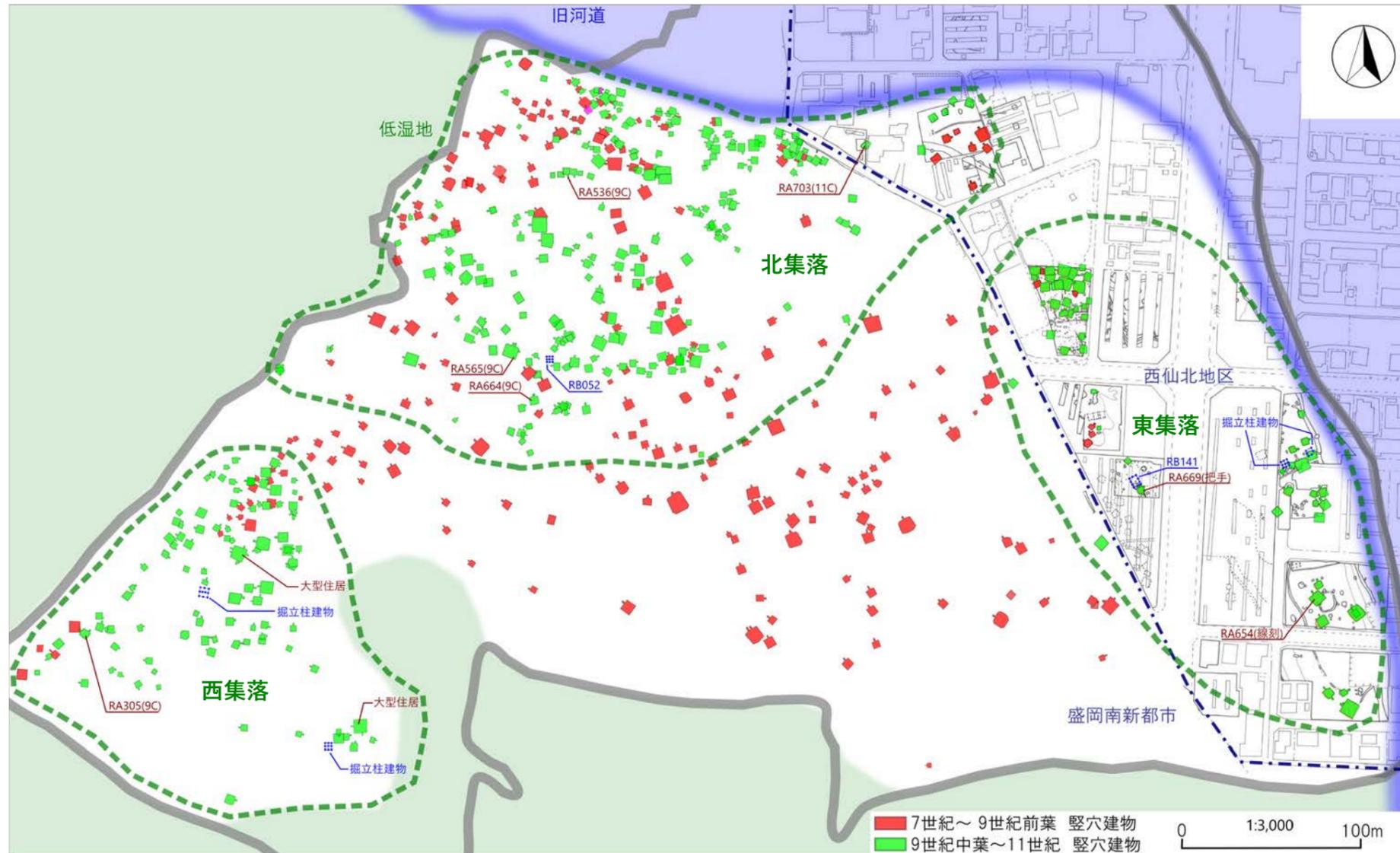
小幡遺跡第4次調査RA09・15・18出土土器 (9世紀前葉) 〔県埋文265集より〕



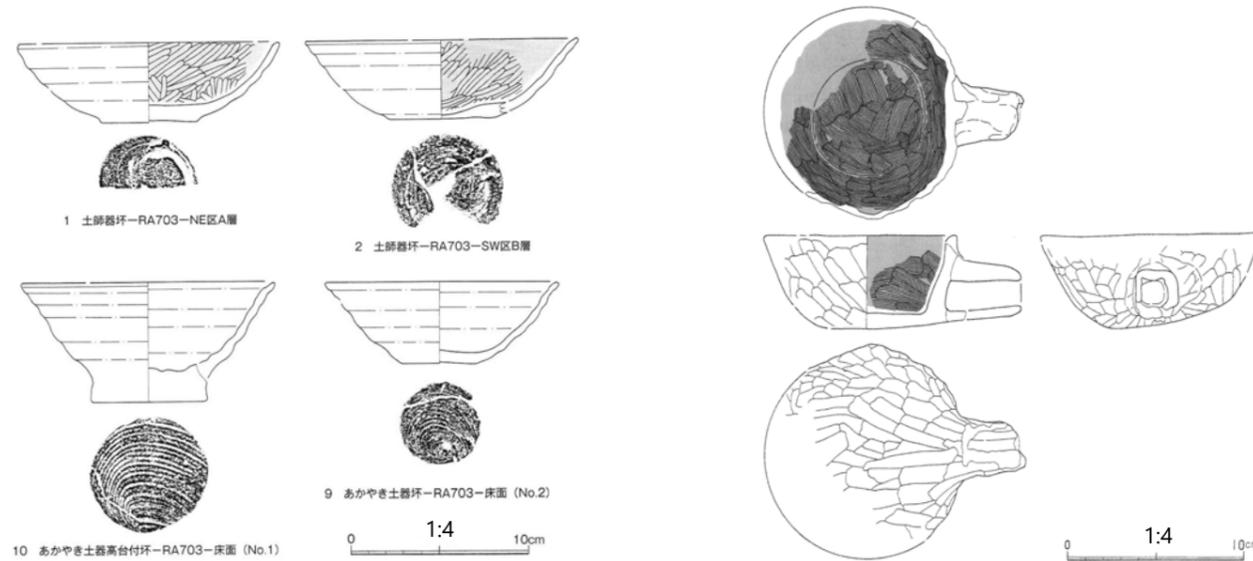
飯岡林崎II遺跡第1・3次調査
RA004土師器・須恵器
(9世紀前葉) 〔県埋文427集より〕



飯岡林崎II遺跡第1・3次調査
古代集落全体図
(9世紀前葉～10世紀)

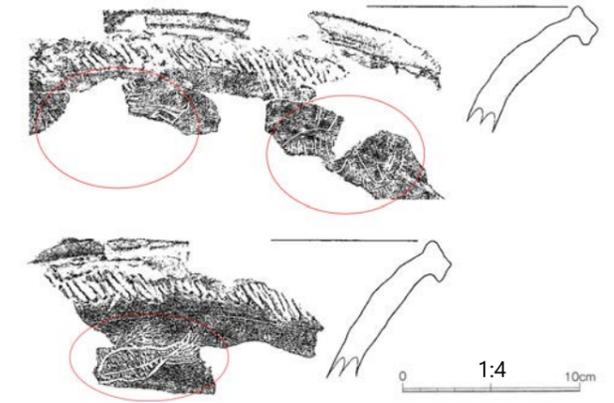


台太郎遺跡古代集落概念図

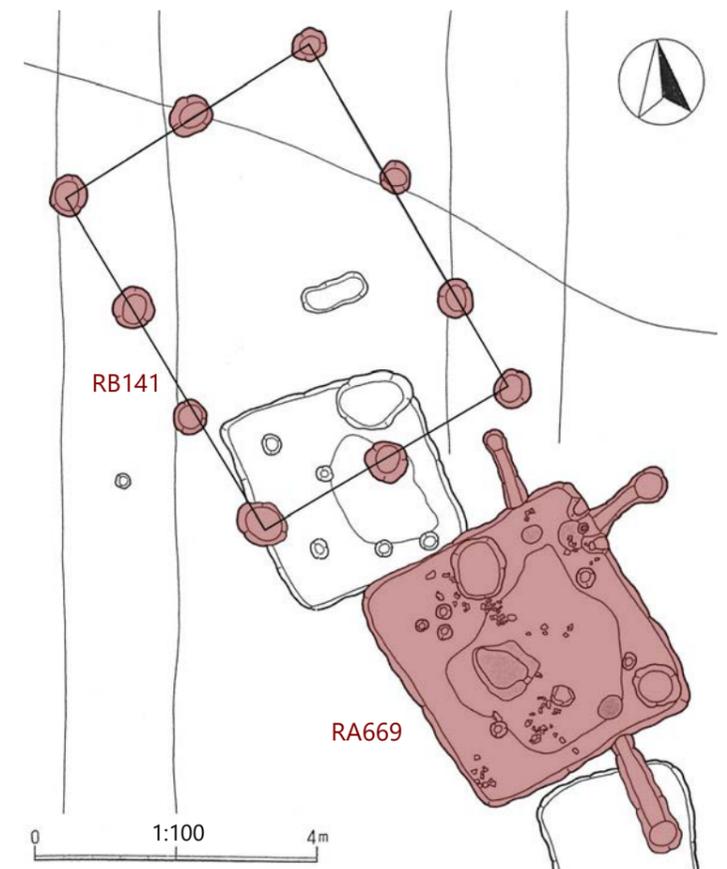


台太郎遺跡第90次RA703出土土器 (11世紀初頭) [市教委2017より]

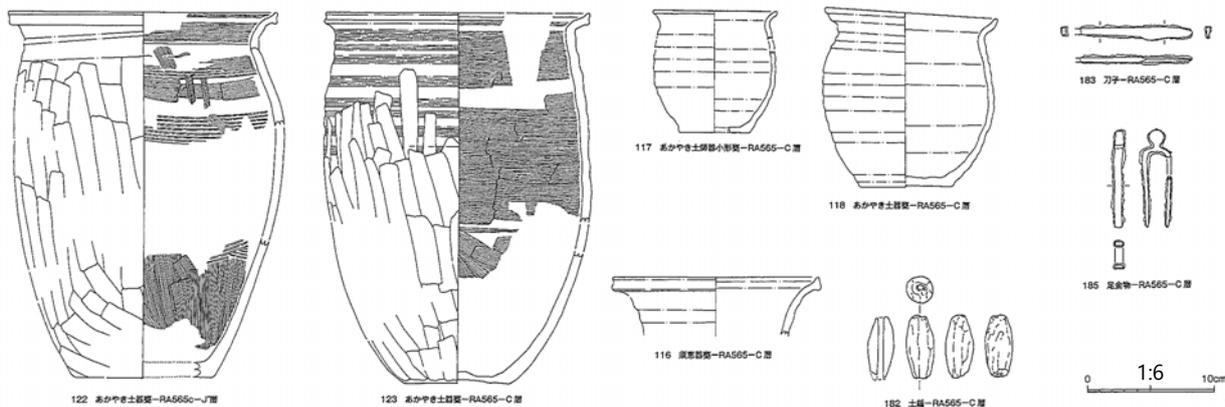
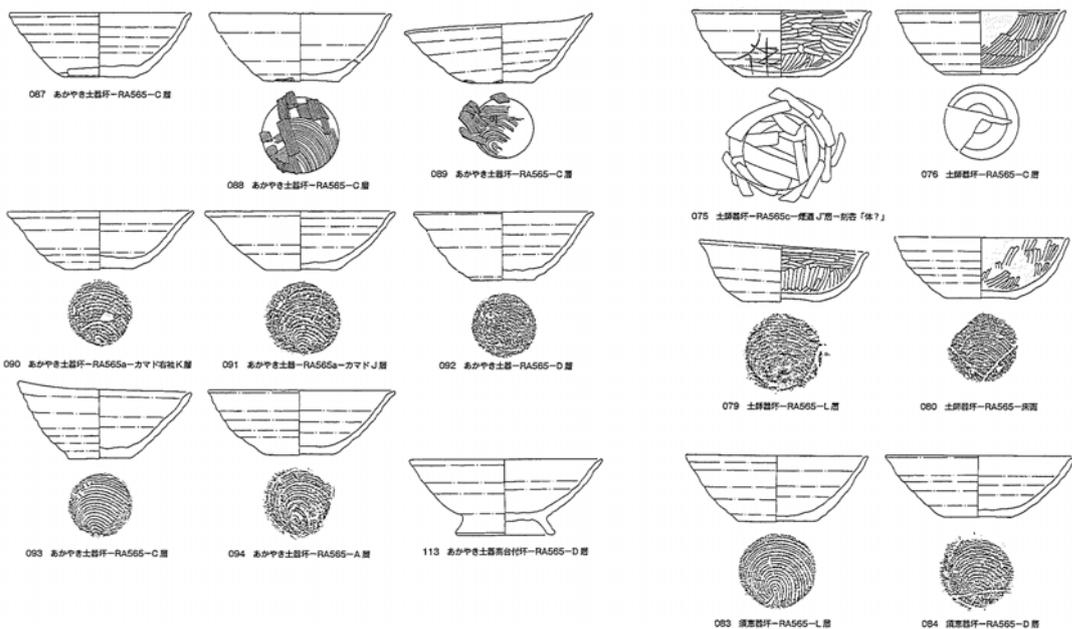
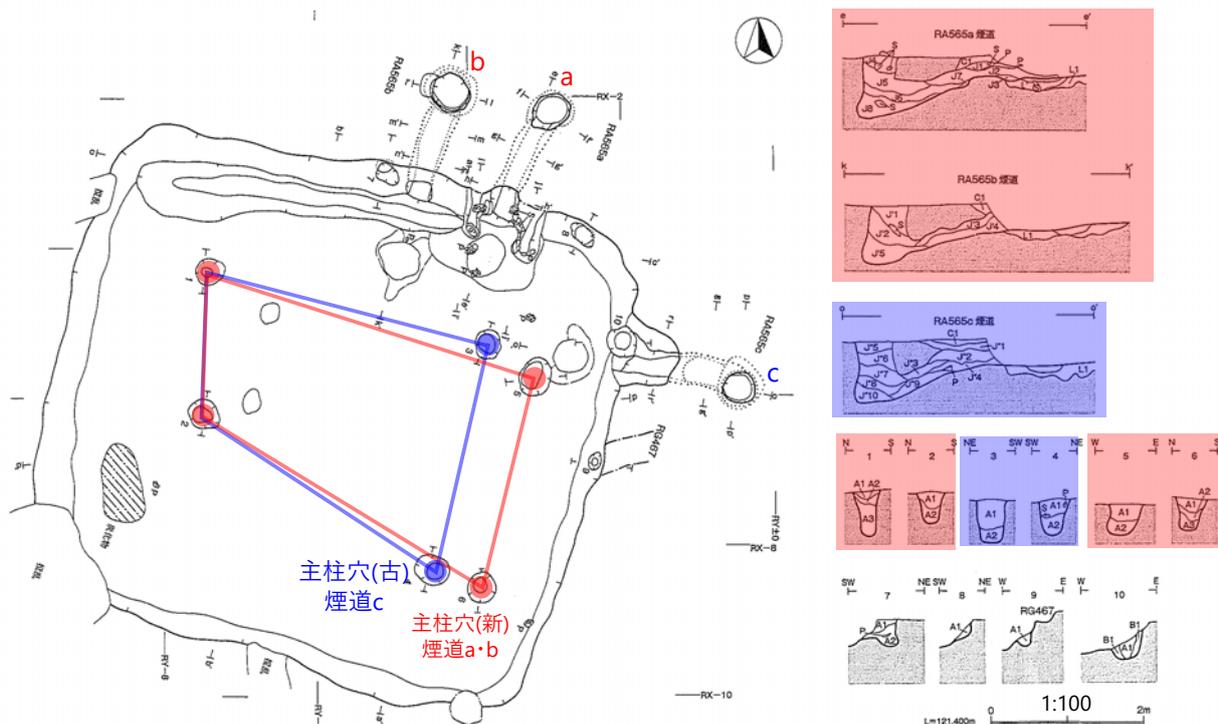
台太郎遺跡第77次RA669把手付土器 (11世紀) [市教委2014より]



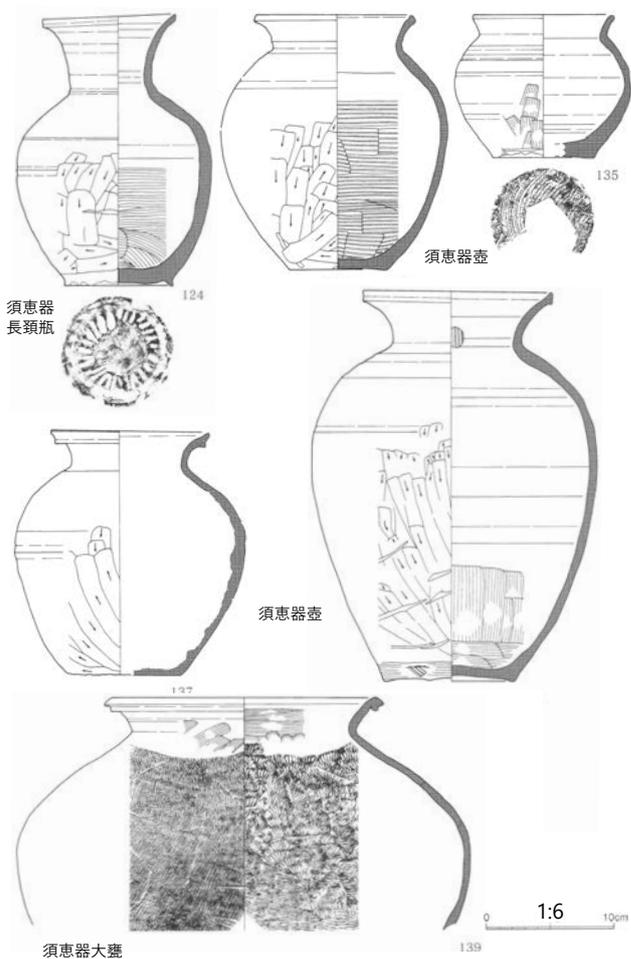
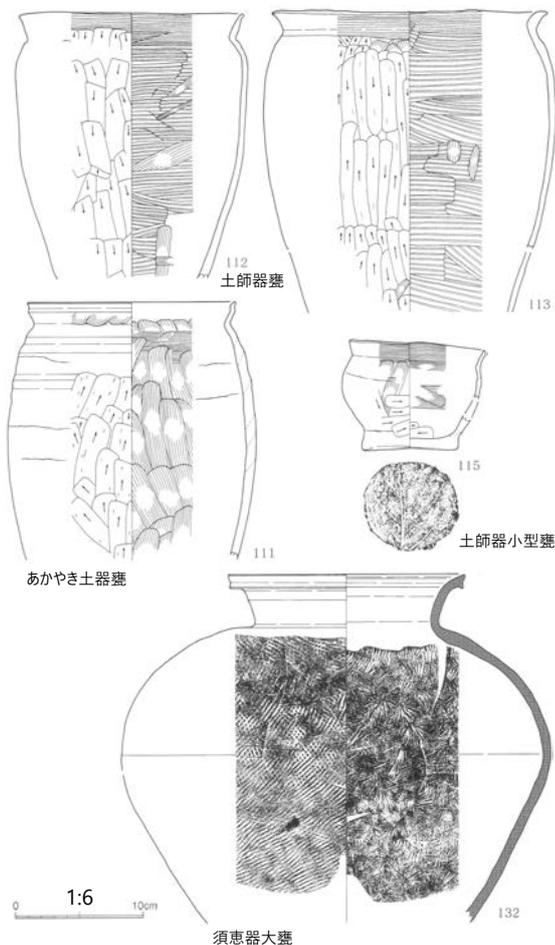
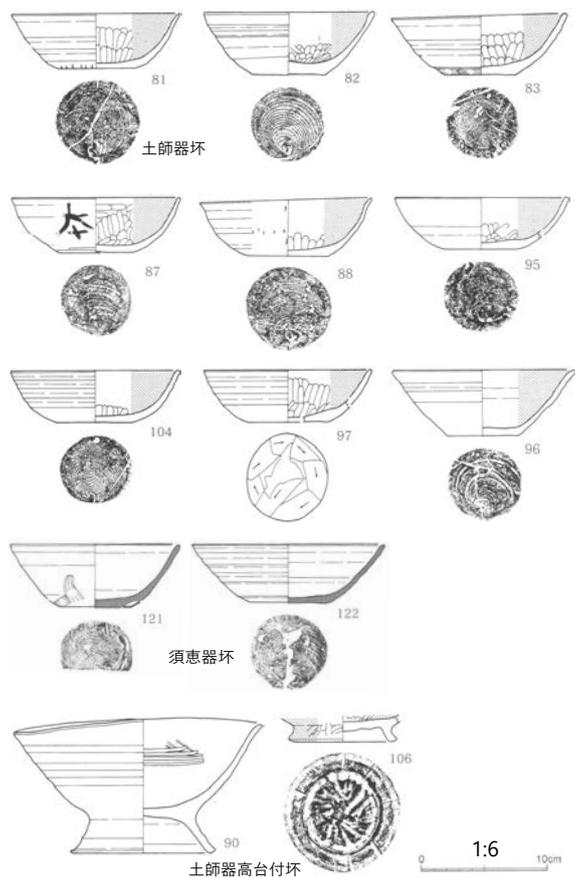
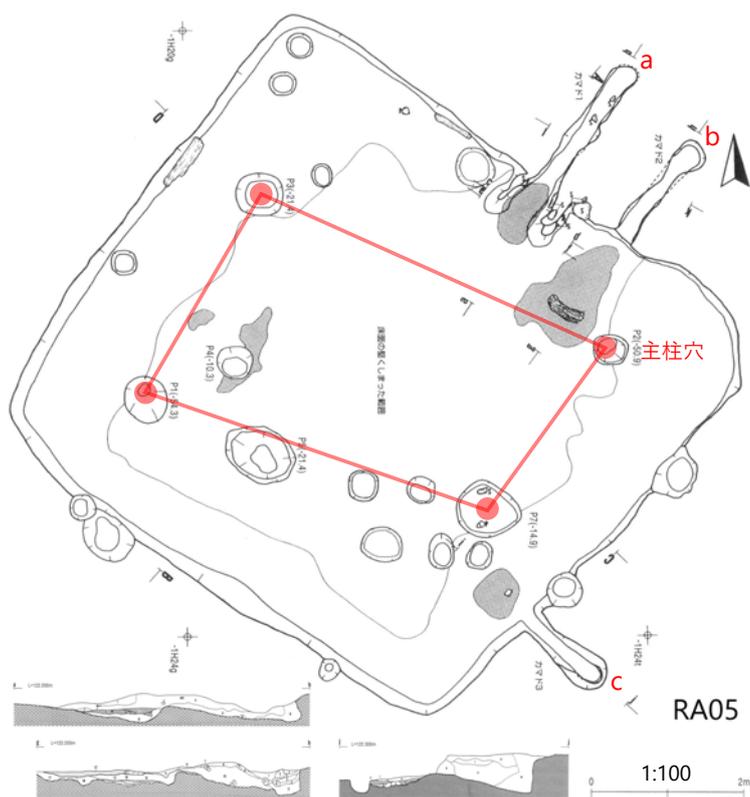
台太郎遺跡第73次RA654線刻画須恵器 (9世紀後葉) [市教委2012より]



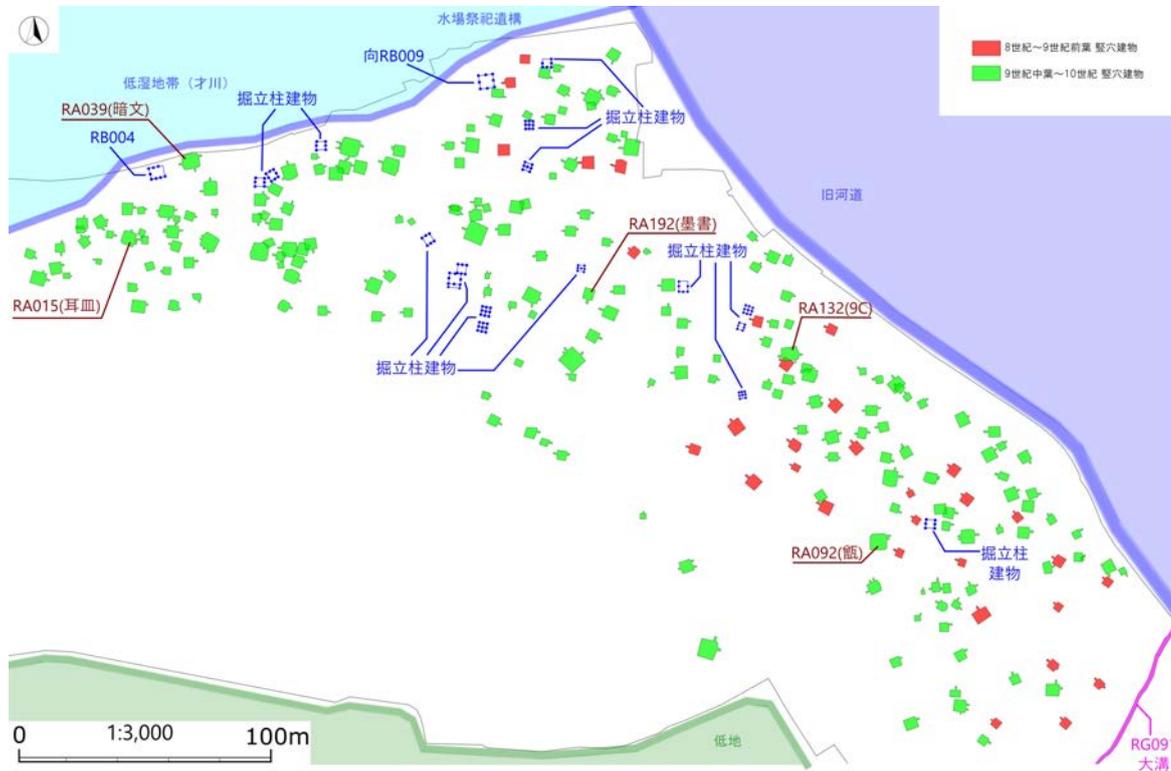
台太郎遺跡第77次RA669竪穴建物跡・RB141掘立柱建物跡 (9世紀後葉) [市教委2014より]



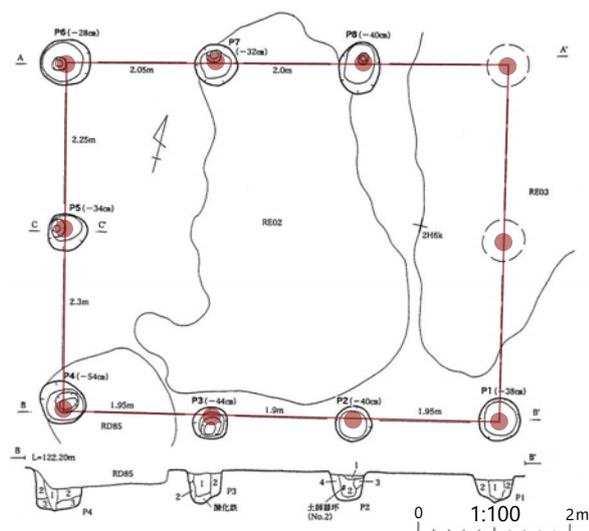
台太郎遺跡第45次調査RA565竪穴建物跡（9世紀後葉）〔市教委2012より〕



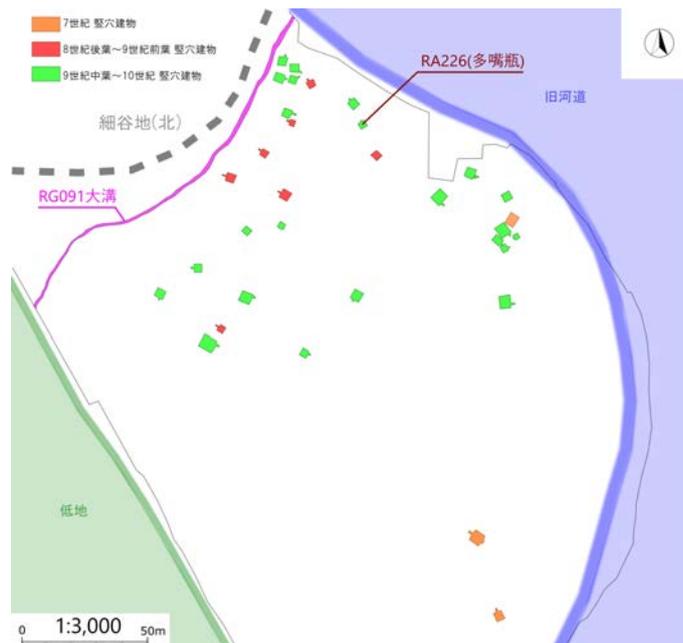
飯岡才川遺跡第3次調査RA05竪穴建物跡（9世紀中葉）〔県埋文393集より〕



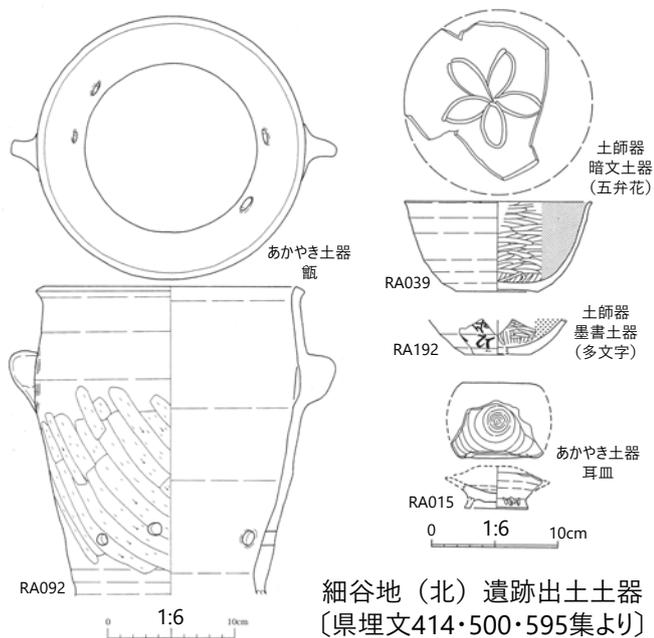
細谷地（北）・向中野館（南）遺跡古代集落概念図



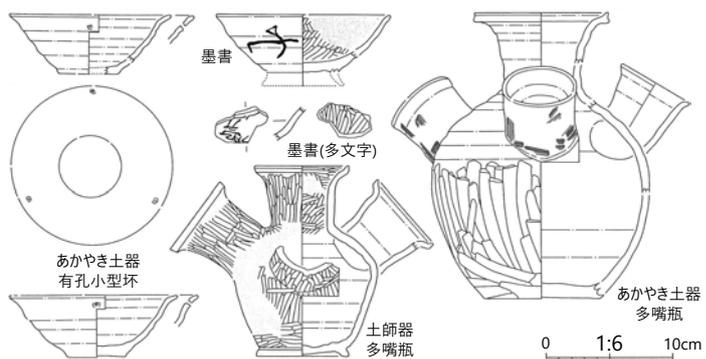
細谷地（北）遺跡RB004掘立柱建物跡
〔県埋文414集より〕



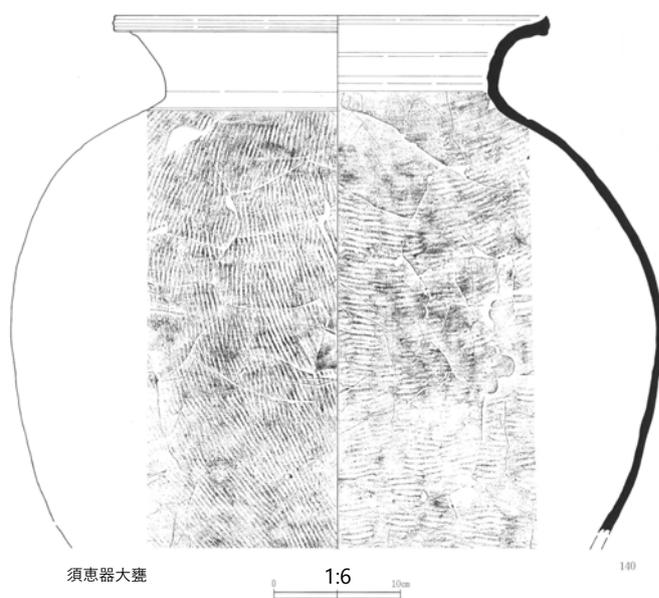
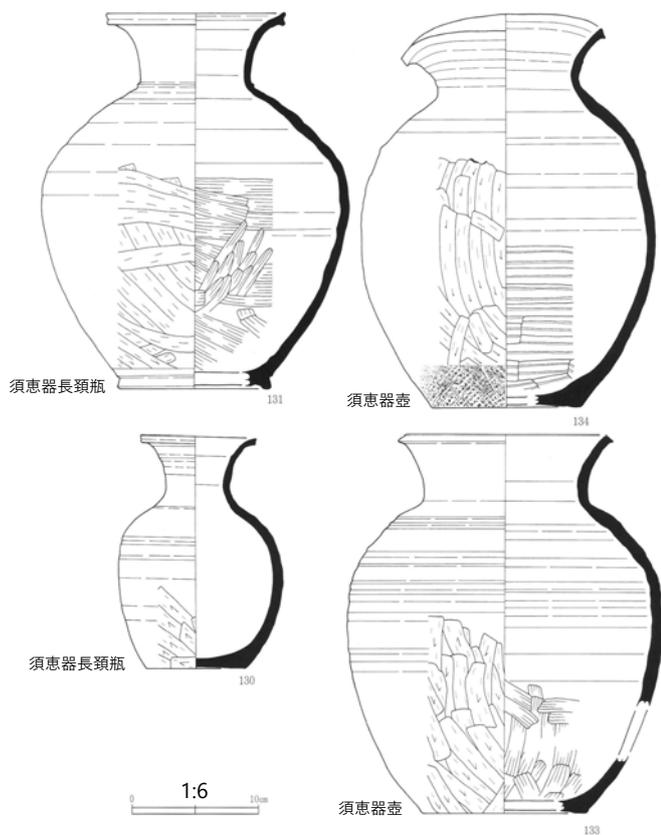
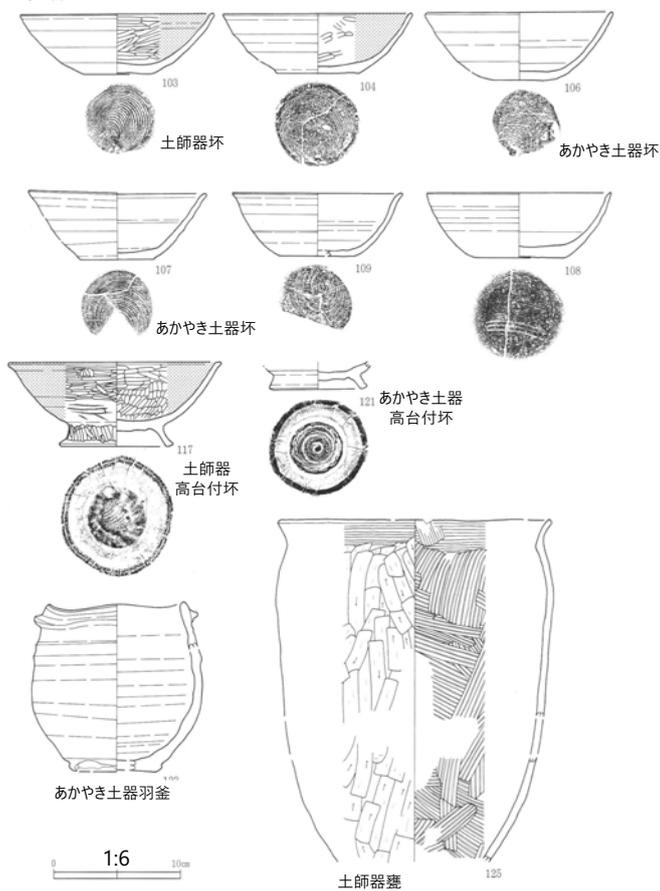
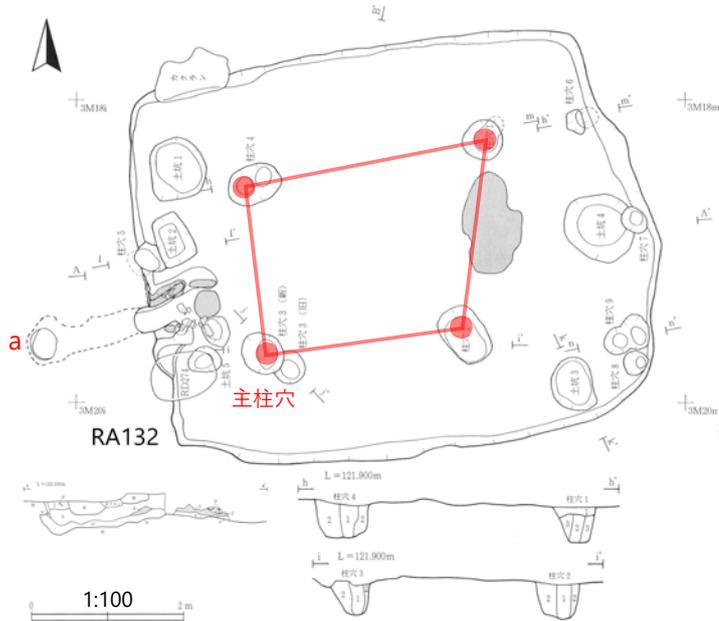
細谷地（南）遺跡古代集落概念図



細谷地（北）遺跡出土土器
〔県埋文414・500・595集より〕



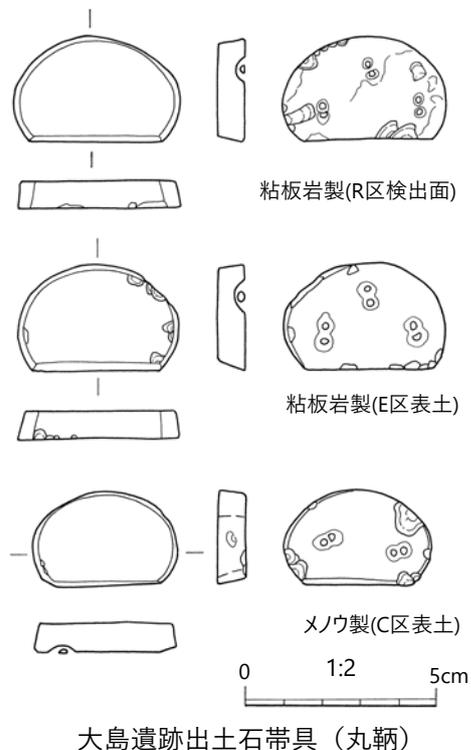
細谷地遺跡（南）第33次RA226出土土器（10世紀初頭）
〔市教委2018より〕



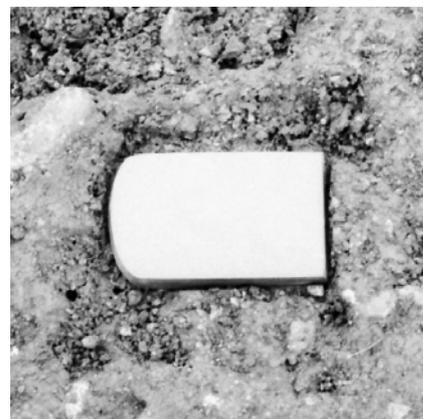
細谷地遺跡第13・14次調査RA132竪穴建物跡（9世紀後半）〔県埋文513集より〕



大島遺跡周辺の空中写真(国土地理院空中写真を加工・加筆)



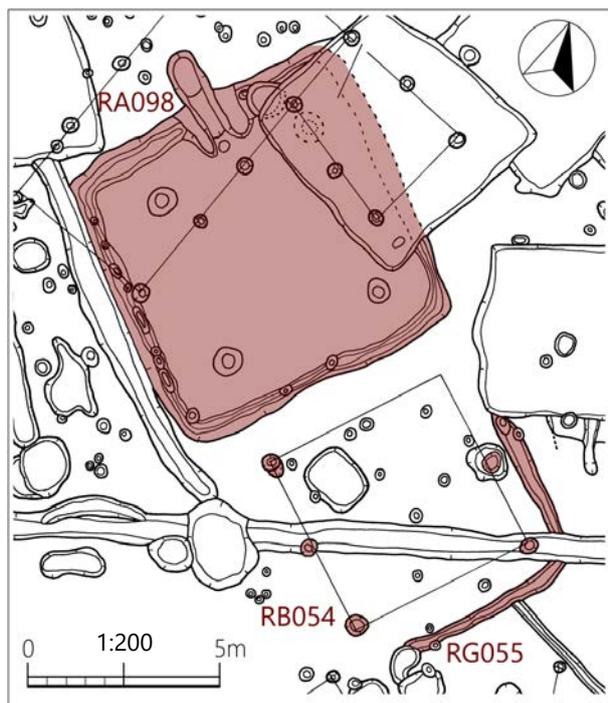
大島遺跡出土石帯具(丸柄)



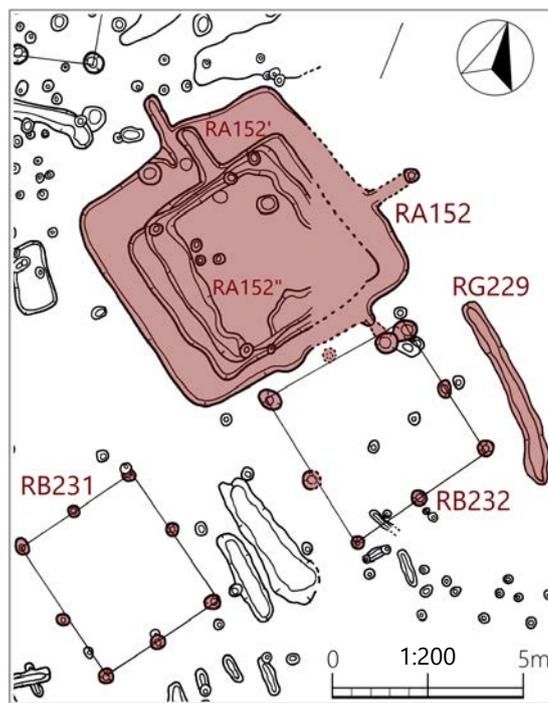
大島遺跡RA004出土石帯具(鈍尾)
〔粘板岩製、原資料は罹災焼失〕



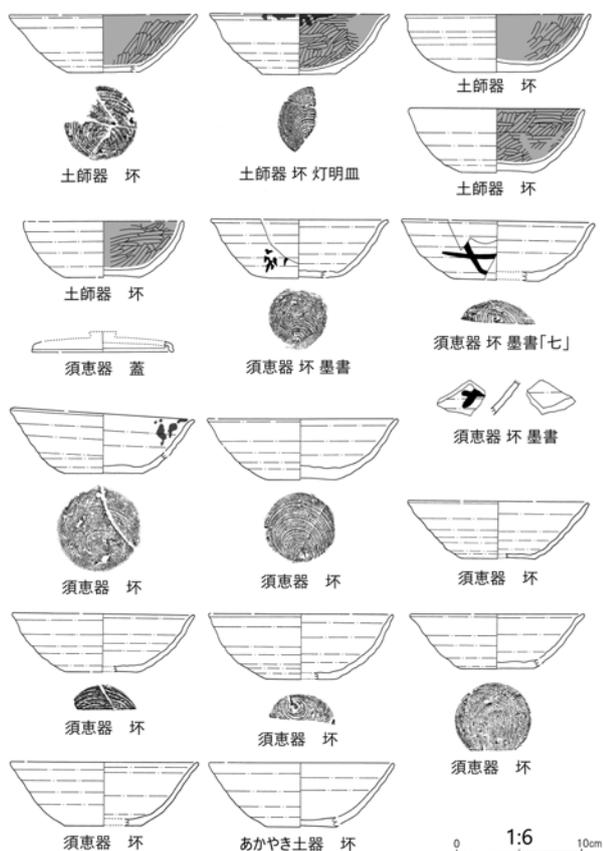
大島遺跡古代集落概念図



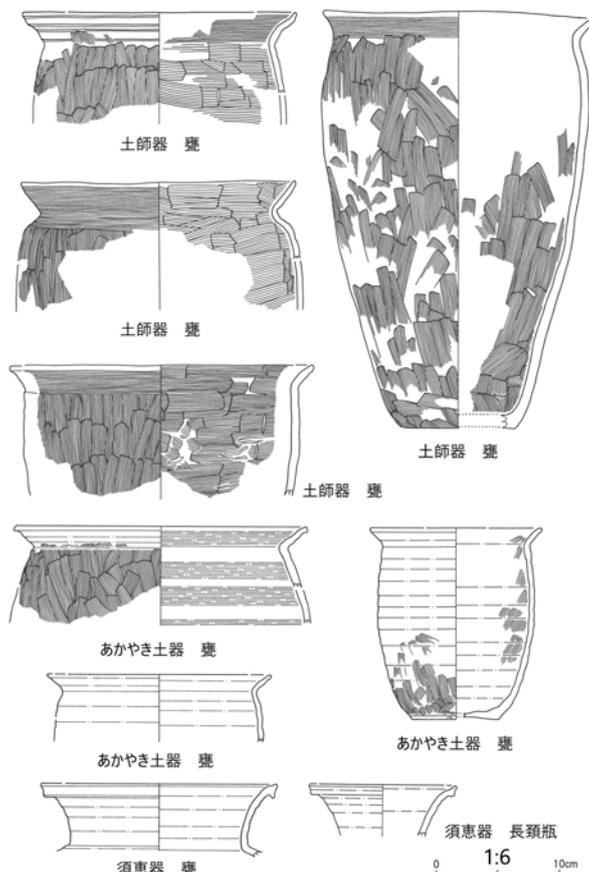
大島遺跡RA098竪穴建物跡
〔市教委2021より〕

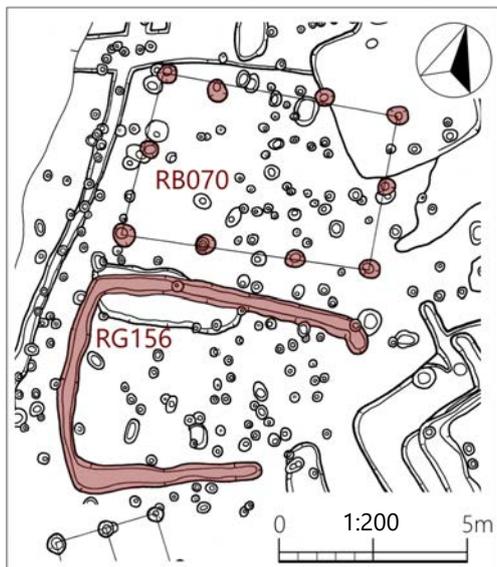


大島遺跡RA152竪穴建物跡
〔市教委2021より〕

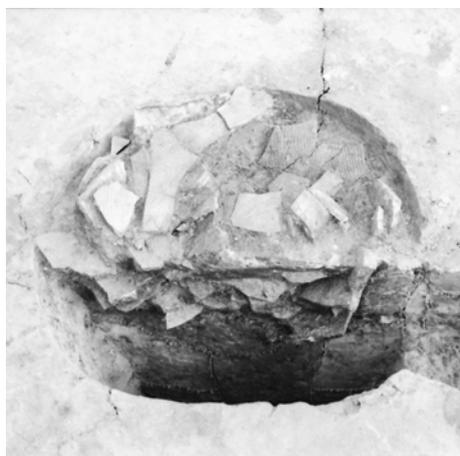


大島遺跡RA098出土土器(9世紀中葉、市教委2021より)

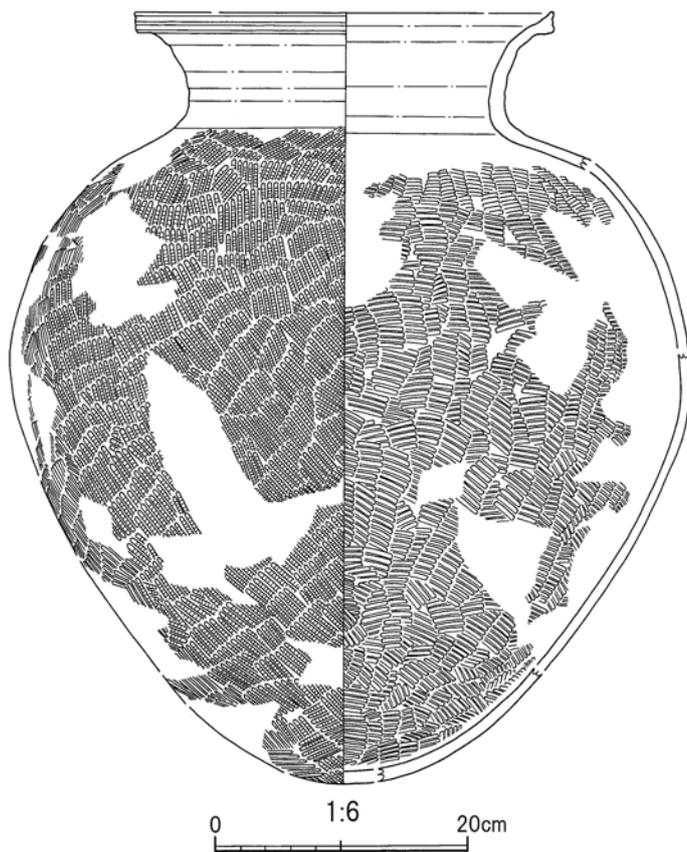




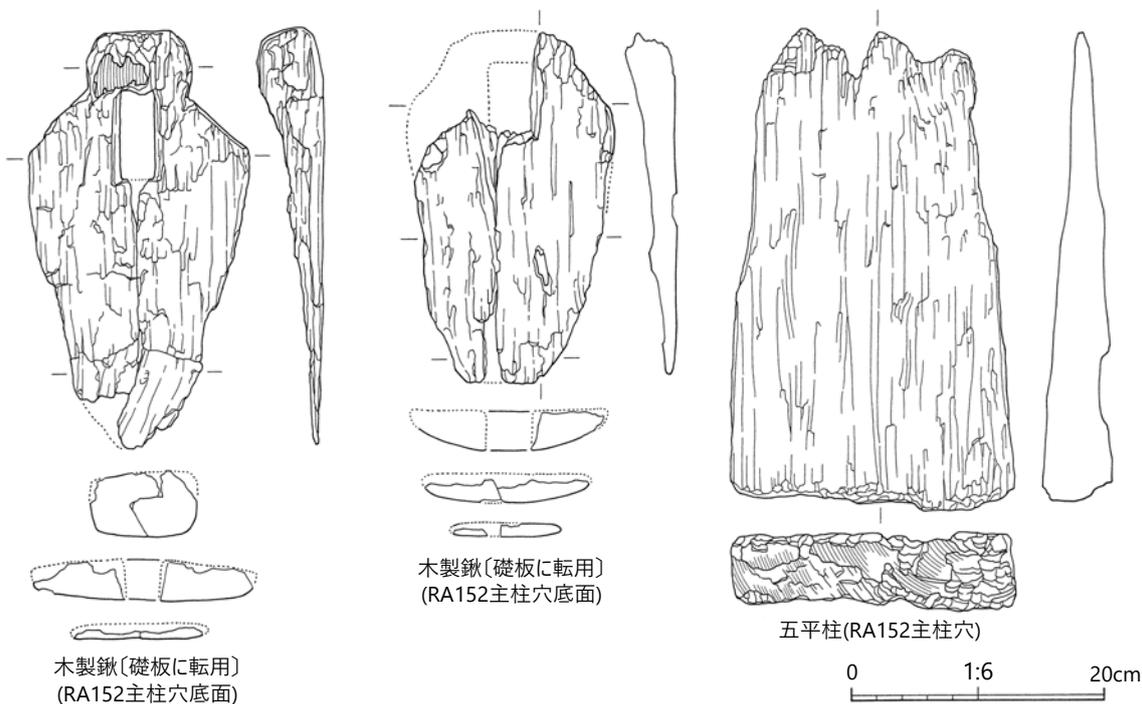
大島遺跡RB070掘立柱建物跡
〔市教委2021より〕



大島遺跡RB070掘立柱建物跡
掘方8須恵器出土状況



大島遺跡RB070掘立柱建物跡掘方8出土須恵器大甕
〔市教委2021より〕



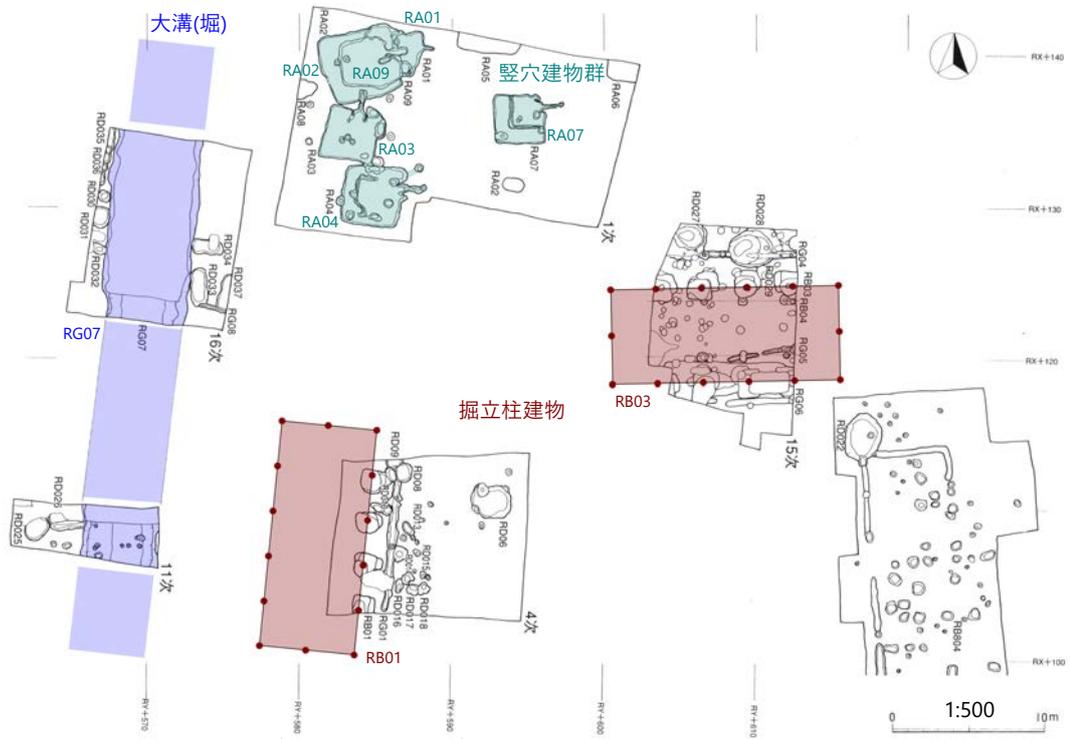
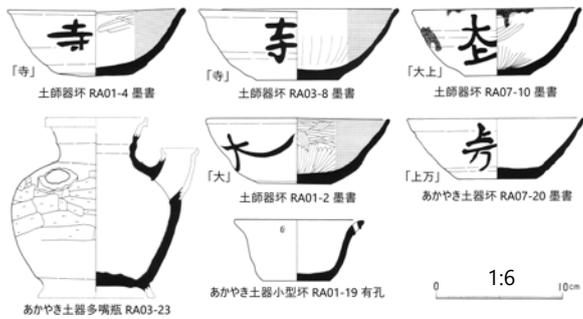
木製鋏(礎板に転用)
(RA152主柱穴底面)

木製鋏(礎板に転用)
(RA152主柱穴底面)

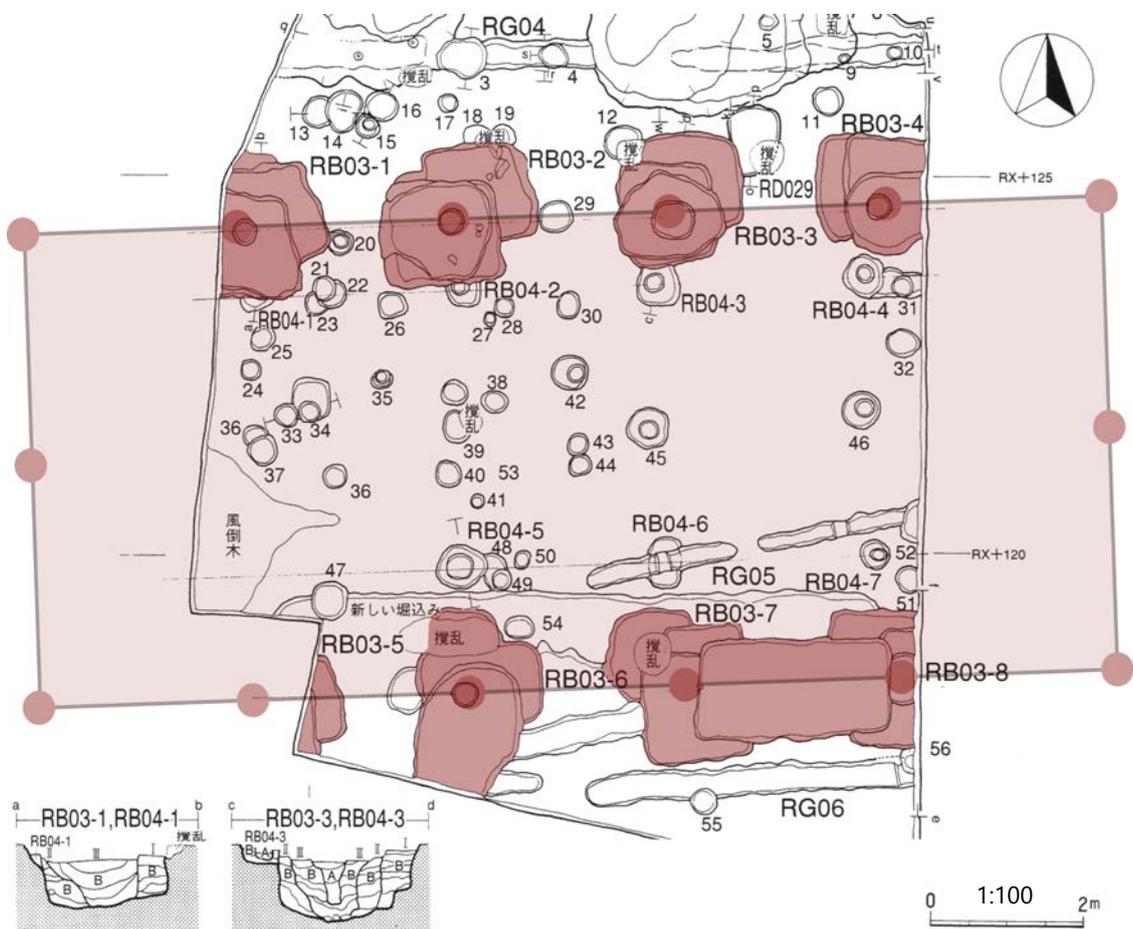
五平柱(RA152主柱穴)

大島遺跡出土木製品〔市教委2021より〕

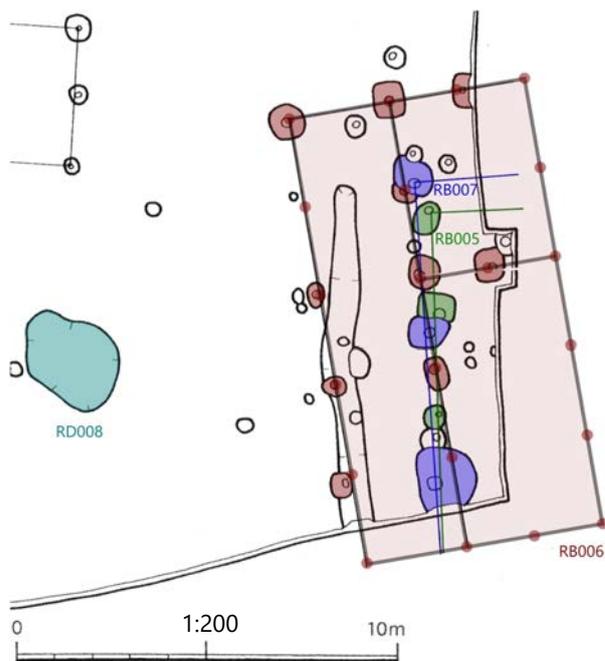
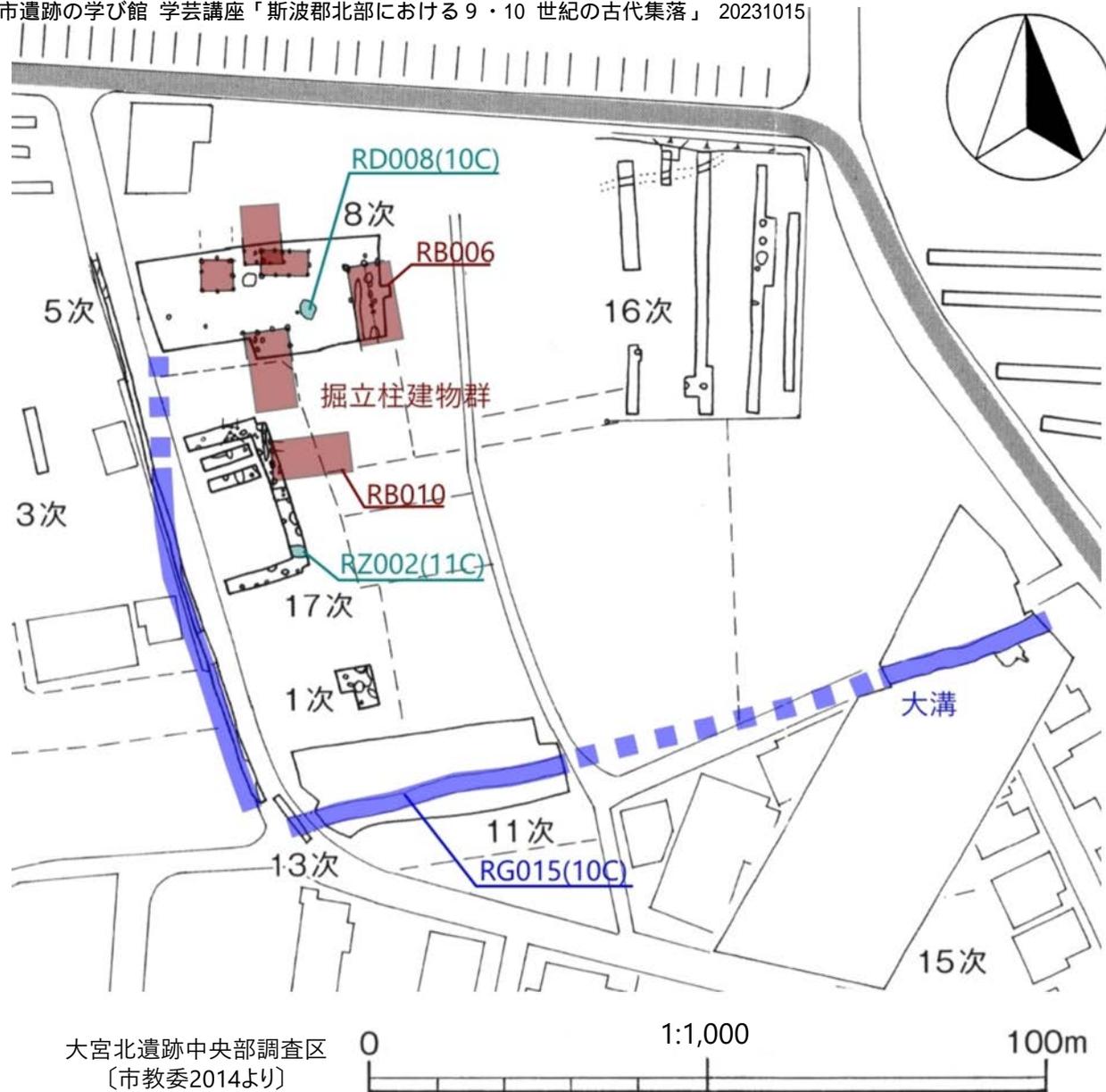
林崎遺跡第1次出土
墨書土器・多嘴瓶・有孔小型坏
(10世紀前葉、原資料は罹災焼失)
〔市教委1979より〕



林崎遺跡中央部調査区(市教委1998より)

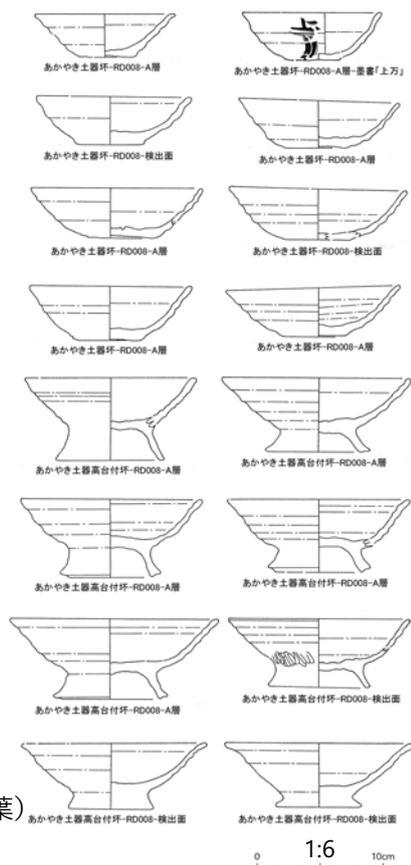


林崎遺跡第15次RB03大型掘立柱建物跡(10世紀)〔市教委1998より作成〕



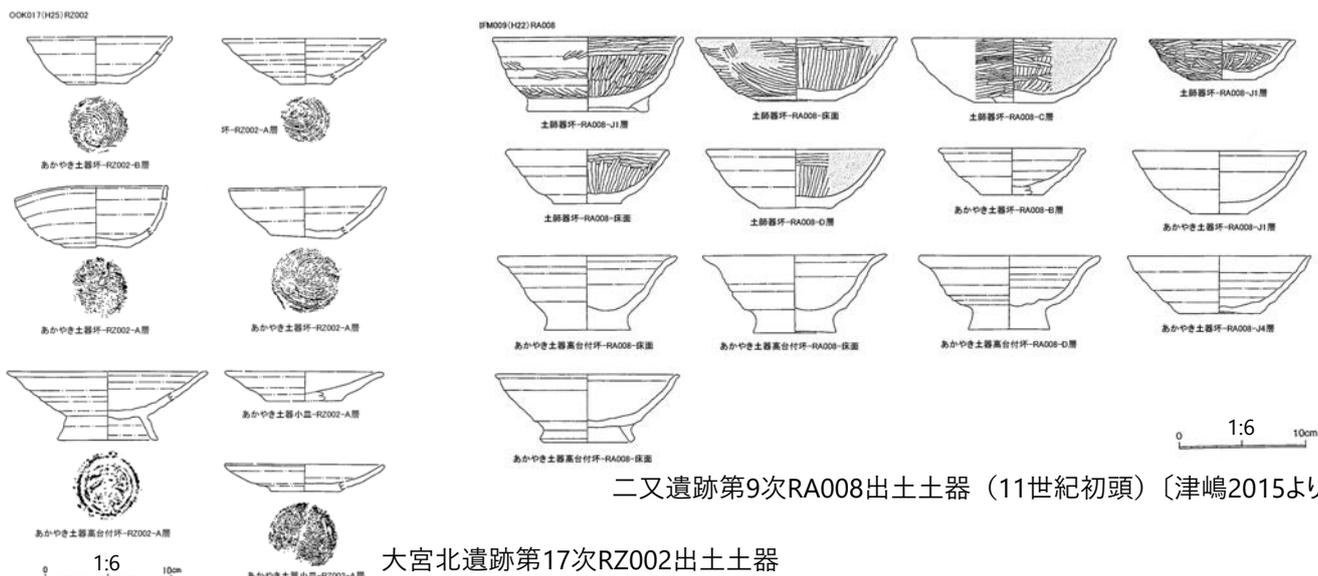
大宮北遺跡第8次RB006大型掘立柱建物跡・RD008土坑（10世紀）
〔市教委2007より作成〕

大宮北遺跡第8次RD008土坑出土土器（10世紀後葉）
〔津嶋2015より作成〕





陸奥・出羽の六城柵体制（9世紀中葉～10世紀中葉）と奥六郡〔八木2022に加筆〕



二又遺跡第9次RA008出土土器（11世紀初頭）〔津嶋2015より〕

大宮北遺跡第17次RZ002出土土器
（11世紀初頭）〔津嶋2015より〕

図版14